

電波利用環境委員会 F作業班:WG2 活動状況と課題

1) JTF A&F ベルリン会議 (2010年12月15日、ベルリンVDE)

- ① JTF A&FのリーダーにドイツのTESEQのAndreas Klinkが承認された。
- ② CISPR16-1-2、CISPR16-2-1、CISPR16-4-2が審議され、CDNEの電気仕様としてLCLを要求しないことなどが決定された。文書についてはCD文書を幹事が作成することになった。
- ③ ドイツのVDEとBnetzA、オランダのPhilipsでRRTを終了後、2月に日本で実施することが決定された。
- ④ 次回のJTF A&Fは、2011年7月5、6日にベルリンで開催する予定である。

2) 日本でのCDNEのRRTの実施

- ① 2月7日(月)にパナソニック電工解析センター(株)、2月14日(月)にJET横浜、2月26日(土)にKEC関西電子工業振興センターで実施した。
- ② 試験に際してEVGの抵抗が断線していて、一部再試験の手配中。

3) CISPR文書2件の回答文書を作成中

① CISPR/F/533/CDV

3件のCD文書の一つにまとめたCDV文書。LED照明器具をCISPR15の対象とすること、AC/DC両電源対応の器具の評価手順の明確化、CISPR15における日本のみを対象にした備考(日本では9k-150kHzを適用しない)の削除、キセノン・ランプを利用した閃光型緊急照明器具への限度値の適用、及びネオンサインや広告灯への限度値の適用に関するもので、賛成で回答する。

② CISPR/F/535/DC

従来の磁気回路式安定器を搭載した直管型蛍光灯器具に、蛍光灯の代替として接続することを目的としたランプ・アダプターや安定器内蔵型蛍光灯ランプ、両口金型準照明器具、両口金型改造ランプ(直管型LEDランプ)の雑音測定用の測定方法を明確にする提案。

日本の照明業界としてはこの種類のランプは認めていないが、測定方法を明確化するという点であるので意見なしで賛成回答する。

4) 今年のソウル会議の準備

- ① 放射妨害波の測定法を10m法から3m法に変更する提案を日本からする予定であり、そのための相関性データ取得、提案資料の作成する。
- ② 昨年のシートル会議で日本から提案した内容のDC文書の準備する。(独立型HID安定器の測定方法)

5) その他のWG2の課題

- ① 周波数範囲の1,000MHzまでの拡大
- ② CISPR15の基本体系の見直し(第8版)
- ③ RMS-AVの導入
- ④ 独立型LED照明器具の測定方法
- ⑤ CISPR30TRにおける擬似標準器具の追加

以上